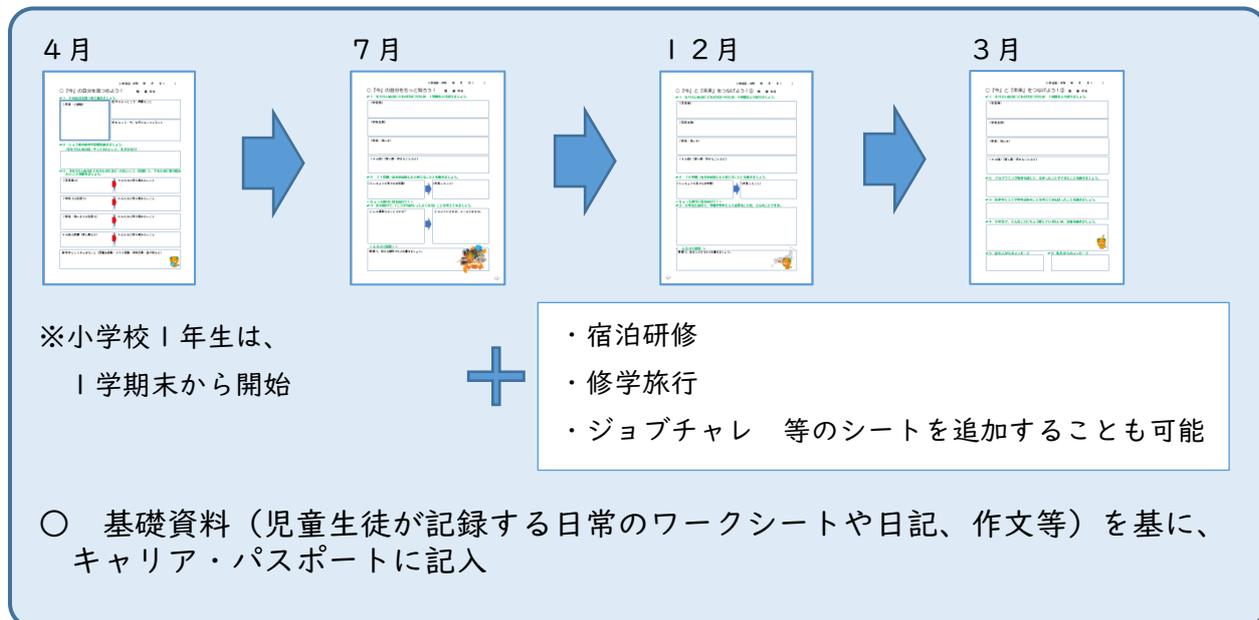


# えひめキャリア・パスポート（例示資料）リーフレット

## 1 えひめキャリア・パスポート「未来の自分に出会う」のイメージ



- ※ 例示資料は、各学年A 4判4枚（両面印刷2枚）を想定
- ※ 例示を参考に、各市町（学校組合）教育委員会、学校で加除修正可
- ※ 12年間（小学校1年生～高校3年生）のキャリア形成の記録を蓄積

## ○ 見通しをもち、振り返る記録

ポートフォリオ（キャリア・パスポート）を活用して、児童生徒が自己の生き方や進路を真剣に考えることにつなげる。

「見通し」と「振り返り」の  
繰り返しが大切やけん！



見通し



振り返り

## ○ キャリア・パスポートで日々の授業をつなぐ

日常の学習活動等で行われる振り返りと、キャリア・パスポートを書く活動をキャリア教育の視点から一体的に捉え、振り返る力を培うものとして位置付ける。

## ○ 小学校・中学校・高等学校をキャリア・パスポートでつなげる

小学校、中学校、高等学校間の体系的なキャリア教育に取り組み、愛媛県におけるキャリア教育の充実を図る。

## 2 「キャリア・パスポート」の目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。

教師にとっては、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

## 3 「キャリア・パスポート」の定義

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導に当たっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

## 4 「キャリア・パスポート」の内容

- ① 児童生徒が自ら記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- ② 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする。
- ③ 学年、校種を越えて持ち上ることができるものとする。
- ④ 大人（家庭や教師、地域住民等）が対話的に関わるができるものとする。
- ⑤ 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする。
- ⑥ 学級活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、その内容及び実施時数にふさわしいものとする。
- ⑦ カスタマイズする際には、保護者や地域等の多様な意見も参考にすること。
- ⑧ 通常の学級に在籍する発達障がいを含む障がいのある児童生徒については、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階に応じて指導すること。また、障がいのある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障がい者雇用を含めた障がいのある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと。
- ⑨ 特別支援学校においては、個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とする。

## 5 「キャリア」と「キャリア教育」

(1) キャリアとは  
「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割

(2) キャリア教育とは  
「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）

- (3) 基盤となる資質・能力（基礎的・汎用的能力）
- 人間関係形成・社会形成能力「かかわる力」  
他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ 等
  - 自己理解・自己管理能力「みつめる力」  
自己の役割の理解、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動 等
  - 課題対応能力「やりぬく力」  
情報の理解・選択・処理等、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善 等
  - キャリアプランニング能力「かなえる力」  
学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択 等

なるほど！「キャリア教育」って、そういうことなんだね。  
どんな社会になっても児童生徒が自立していけるように、全教育活動を通じて、「基礎的・汎用的能力」を身に付けていくことが大切なんだね。



## 6 「キャリア・パスポート」作成のポイント

児童生徒の学年や発達の段階、地域の特性に応じて、児童生徒の現在、未来にわたって活用できる「キャリア・パスポート」になるよう工夫する。

- 愛媛県版例示資料は、各学年A4判4枚（両面印刷2枚）を想定している。
- 県資料はあくまでも例であり、各市町（学校組合）教育委員会、学校で加除修正してよい。
- 宿泊研修、修学旅行等のシートを追加してもよいが、各シートはA4判（両面印刷可）に統一し、各学年での蓄積は5枚以内とする。（負担増にならないように）
- 呼称については、『えひめキャリア・パスポート「未来の自分に出会う」』である必要はない。（各学校（地域）独自に設定可能）
- 文部科学省より提示されている例示資料（文部科学省平成31年3月29日事務連絡）も参考に、児童生徒の発達の段階や各学校（地域）の実態に応じて作成する。

（参考）

- 文部科学省 「キャリア・パスポート」例示資料等について  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/detail/1419917.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917.htm)
- 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センターで作成した調査研究報告書等一覧（「進路指導関係」を選択）→キャリア教育リーフレットシリーズ特別編1～5  
<https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/3.htm>

## 7 「キャリア・パスポート」に係るQ&A

### Q1 「キャリア・パスポート」は、学級活動の時間に記録するのですか？

A1 「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、学級活動に偏らないように留意してください。学級活動以外の教科や学校行事、帰りの会等での記録も十分に考えられます。学級活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、記録の活動のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視してください。

### Q2 「キャリア・パスポート」として蓄積する記録の中身は決められていますか？

A2 蓄積する記録の中身は決められていません。文部科学省の「例示資料」を参考にし、愛媛県版例示資料を示しました。

愛媛県版例示資料と同様の内容が含まれていれば、各学級担任や各学校が使用しているワークシートで代替して構いません。

なお、小学校4・6年生で実施する「プログラミング学習」と「英語学習」の振り返りは、当該学年で確実に実施し、次学年以降に引き継いでください。

### Q3 項目に空欄があってもいいですか？

A3 本人の意思とは反する記録を強いる必要はありません。その場で書けなくても面談等、対話の機会を通じて引き出す方法なども考えられますが、無理のない範囲で対応してください。「キャリア・パスポート」が学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に指導上の配慮を行ってください。

また、特別な配慮を要する児童生徒については、個々の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積となるように配慮してください。

### Q4 ファイル等の準備、「キャリア・パスポート」の管理はどうしますか。

A4 ファイル等の準備については、各学校に一任します。

個人情報を含むことが想定されるため、「キャリア・パスポート」の管理は、必ず学校で確実にを行うようにしてください。

### Q5 学年間・学校間の引き継ぎは、どのようにしますか。

A5 原則、引き継ぎは、学年間は教師間で、学校間は児童生徒を通じて行うこととなっています。

愛媛県内における小学校から中学校への引き継ぎは、できるだけ指導要録の写しなどと同封して送付することとしてください。

中学校から高等学校への引き継ぎは、生徒に高等学校へ持参させることを原則としてください。

なお、全国の学校で「キャリア・パスポート」は使用されていますので、県内外を問わず、転入学に当たっても、転出先の学校に確実に送付する又は持参させるよう留意してください。